

稚内高校

令和 8 年度シラバス

看護科 専攻科 2 年

目次

1 基礎看護学方法論	9 看護臨地実習(地域・在宅看護論実習)	17 人間関係論
2 地域・在宅看護論(演習)	10 公衆衛生	18 文学
3 成人看護学各論	11 看護臨地実習(成人看護臨地実習)	19 生化学
4 老年看護学各論	12 小児看護学臨地実習	20 公衆衛生学
5 精神看護学各論	13 母性看護実習(臨地)	21 関係法規
6 看護の統合と実践(国際看護)	14 看護臨地実習(精神看護学)	22 体育
7 看護の統合と実践(看護管理)	15 臨地実習(看護の統合と実践)	23 英語
8 看護研究	16 情報処理	

教科	看護	学年	2	科目	基礎看護学方法論	単位数	1(30)	必修		
使用教科書	系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ									
使用副教材	なし									
科目の目標	(１) 臨床現場で使用する医療機器の基礎的知識や扱い方が理解できる。 (２) 様々な状況に応じた技術援助の展開方法が実践できる。									
評価の観点	【知識・技術】 機器の活用及び看護活動の内容に対する根拠を明確にしながらその必要性を考えることが出来る。 【思考・判断・表現】 機器の特徴や留意事項を工夫してまとめ、状況に応じた活用方法がまとめられる。機器の活用及び看護活動の内容に対する根拠を明確にしながらその必要性を考えることが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 医療機器に関する基本的な取り扱い方法や留意点をふまえ、看護者としての責任を考えることが出来る。									
		5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)				
	①知識・技術	授業内容を越えた自主的学習が認められる。	授業内容をほぼ100%理解している。	到達目標は理解しているが、授業内容に不足がある。	到達目標に達していることが認められる。	到達目標に達していない。				
	②思考・判断・表現	解決方法が分からない他人にアドバイスができる。	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる。	教科書などを参考にすれば、独自で課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる。	他人のアドバイスがあっても自発的に課題を解くことができない。				
	③主体的に学習に取り組む態度	自ら進んで予習範囲を超えて調べている。	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる。	指示した予習範囲の理解にあいまいな点がある。	指示された範囲は予習するが、理解が不十分である。	指示された範囲は予習が不十分である。				
評価の算出	定期考査：8割 (①②③) 小テスト・提出物・授業参加：2割 (①②③)									
年間学習計画							評価の観点			
学期	月	時数	単元・主な学習内容					①	②	③
前期	4	1	各種医療機器の取り扱い方法について/術後ドレーン挿入部位・経路・吸引器による吸引操作					◎	○	○
	5	2	リネン交換（おむつ交換や寝衣交換との同時作業） 全介助のストレッチャー移乗 寝衣交換、移乗（輸液ラインやドレーンがあった場合等）・清拭、陰部洗浄（麻痺患者、オムツ交換や寝衣交換、ストマとの併用等）※系統実習に向けての復習					◎	◎	◎
	6	3	看護過程復習・事例にてSOAP、結果・評価実践 人工透析の自己管理（事例）・気管挿管介助・校内実習を通して、手術室での手洗い・ガウンテクニック・滅菌操作手順・留意点を学ぶ					◎	◎	○
	7 8 9									
後期	10	3	麻酔の種類・適応の違い・皮膚知覚と脊髄神経の関係・局所麻酔薬の副作用、全身麻酔後のシバリング・薬剤の保管方法（医療用麻薬・毒薬）					◎	○	○
	11	7	腰椎穿刺（ルーンパール）、骨髄穿刺、胸腔穿刺、腹腔穿刺 抗生物質による急性尿細管壊死・腋窩リンパ節郭清後の看護・放射線療法と治療中の生活指導・がん患者・家族における苦痛の種類・終末期がん患者にみられる悪液質の徴候・成人のがん患者が痛みのスケール・がん性疼痛の種類・喫煙指数（プリנקマン指数）・TNM分類					◎	◎	○
	12	14	国試対策・医療用麻薬の種類と特徴 抗生物質による急性尿細管壊死・腋窩リンパ節郭清後の看護・放射線療法と治療中の生活指導・がん患者・家族における苦痛の種類・終末期がん患者にみられる悪液質の徴候・成人のがん患者が痛みのスケール・がん性疼痛の種類・喫煙指数（プリנקマン指数）・TNM分類					◎	◎	○
	1 2 3 合計	30								
学習方法・その他										
◎授業の受け方 ・臨床現場における基本的な医療機器として、実習場所でも積極的に学習するための知識としてきちんと学習していきましょう。 ・機種等の違いを前提に、基本的操作や留意点などしっかりと身に付けて行きましょう。 ・基本的な技術をふまえ、状況に応じた優先度や判断力を身に付けて実際の場面で活用出来るようにしましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。										
◎その他 ・基本的根拠が大切になりますので、基本的技術の復習が大切です。 ・専門的な看護技術を身に付けるため、各領域における技術との関連性を重視して学習していきましょう。										

教科	看護	学年	専攻	科目	在宅看護論（演習）	単位数	1（45）	必修				
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基礎、地域・在宅看護の実践											
使用副教材	なし											
科目の目標	(1) 対象の日常生活と家族に対する具体的看護の方法を理解できる。 (2) 在宅看護に多い医療処置の具体的支援の基本を理解する。											
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 療養生活を継続するための具体的な技術について理解を深め実施するための知識と技術を身に付ける。ことが出来る。 【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 療養生活を継続するための多様な課題を発見し、適切な介入方法を考え解決する力を養うことが出来る。 【 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 】 療養生活を継続するための看護について自ら学び、多職種と連携・協働し、主体的に取り組む態度を養うことが出来る。											
	①知識・技術	在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解し在宅看護に関する知識と技術を身に付けることができる。	4(十分に満足できる)	在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解し知識を身に付けることができる。	3(やや努力を要する)	在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解し必要性を考えることができる。	2(努力を要する)	在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解することができる。	1(相当の努力を要する)	在宅療養者と家族の生活・治療・状況に応じた看護の基本を理解できない。		
	②思考・判断・表現	在宅療養者と家族への支援について多様な課題について発見し、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて解決することができる。		在宅療養者と家族への支援について多様な課題について、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて考えることができる。		在宅療養者と家族への支援について多様な課題について、倫理原則を踏まえて考えることができる。		在宅療養者と家族への支援について多様な課題について、考えることができる。		在宅療養者と家族への支援について、考えることができない。		
	③主体的に学習に取り組む態度	在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種と連携・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。		在宅療養者と家族への支援について自ら学び、多職種・協働しながら生活の質の向上を目指し、主体的に具体策を考えることができる。		在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上を目指す具体策を考えることができる。		在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができる。		在宅療養者と家族への支援について、生活の質の向上について考えることができない。		
評価の算出	定期考査：8割（①、②） 提出物：2割（③）											
年間学習計画										評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容							①	②	③
前期	4	10	・退院調整部門および退院調整看護師の役割・地域医療における看護師の役割・地域・在宅看護における家族のとらえ方・地域・在宅看護が必要な背景や目的・理念 ・地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築（医療介護総合推進法）・地域包括支援センターの設置・運営体制・地域包括支援センターのサービス対象 配置する専門職3職種・地域包括支援センターの4つの業務・国民の健康の増進の推進に関する基本方針 ・健康日本21（第三次）・地域保健法：保健所・市町村保健センター・市区町村で働く保健師の業務3つの分野・高齢者虐待防止法・「老人保健法」から「高齢者の医療の確保に関する法律」への全面改正・成年後見制度 ※在宅実習に向けての復習（事前学習中心）※増粘剤による実践（校内演習）							◎	○	◎
	5	1	アドボカシーの実践・認知症事例カンファレンス 「人間としての尊厳」や「その人がその人らしく生きる」という、自己決定能力を肯定した人格の尊重に基づくケアの実践							◎	◎	◎
	7	14	・現代の家族構成の特徴/在宅看護の原則・介護保険の訪問看護の利用者・健康保険による訪問看護サービス対象者・特別訪問看護指示書・訪問看護基本療養費 ・訪問看護ステーションの開設要件・訪問看護の従事者/チームケア・地域連携クリニカルパス・レスパイトケア・精神科訪問看護・アドバンスケアプランニング(ACP) ※在宅実習に向けての復習（事前学習中心）・							◎	◎	◎
	9	5	在宅看護技術・訪問看護師の役割・在宅でもとめられる技術の応用（呼吸機能、食生活、嚥下、排泄、移動・移乗、認知機能、終末期）在宅療養者の生活において転倒するリスク・褥瘡、尿道留置カテーテル、ストーマ・経管栄養、中心静脈栄養、在宅酸素療法、人工呼吸器、緩和ケア ※国試過去問にて技術解説							◎	◎	◎
後期												
	11	7	子どもと家族に関する法律と制定された年・医療的ケア児者の在宅人工呼吸療法・国試対策・後期中間考査							◎	○	○
	12	8	上級救命講習 修了証取得							○	◎	◎
	合計	45										
学習方法・その他												
◎授業の受け方 ・サービスの法的根拠や内容について、整理して学習していきます。 ・日常生活や医療処置など、基本的技術と在宅の違いを理解しましょう。 ・訪問看護師の特徴と役割をしっかりと理解していきます。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。												
◎その他												

教科	看護	学年	専2	科目	成人看護学各論		単位数	1(30)	必修																								
使用教科書	医学書院 循環器 内分泌・代謝 アレルギー・膠原病 母性看護学各論 女性生殖器																																
使用副教材	なし																																
科目の目標	健康レベルや障害の状況に応じた看護を踏まえ、実践的・体験的な学習活動を通じて知識と技術を習得するとともに、習得した知識と技術を生かして人々に応じて適切に活用し、回復の促進や生活の質の向上、セルフケアの支援等ができるようにすること。																																
評価の観点	【知識・技術】 機能障害のある患者の看護について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 機能障害のある患者の看護について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 機能障害のある患者の看護について自ら学び、患者の安全・安楽を守り、回復の促進を目指し主体的かつ協動的に取り組むことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解するとともに、その疾患に対する看護と関連する技術を身に付ける。</td><td>各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解するとともに、その疾患に対する看護を考えることができる。</td><td>各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解し、その看護を学ぶことができる。</td><td>各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解することができる。</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>各疾患の治療過程と回復までにおける看護の継続性について学び、看護師の役割を考え、意見を述べることができる。</td><td>各疾患の治療過程と回復までにおける看護の継続性について学び、看護師の役割を考えることができる。</td><td>各疾患の治療過程と回復までにおける看護師の役割を考えることができる。</td><td>各疾患の治療過程と回復までにおける看護の役割を学ぶことができる。</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れ自己の考えを深めより良い学習につなげる事ができる。</td><td>予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れる事ができる。</td><td>予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。</td><td>授業を受けて、事後学習することが出来る</td><td>授業に参加しない/課題提出しない</td></tr></table>										5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解するとともに、その疾患に対する看護と関連する技術を身に付ける。	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解するとともに、その疾患に対する看護を考えることができる。	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解し、その看護を学ぶことができる。	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解することができる。	授業に参加しない/課題提出しない	②思考・判断・表現	各疾患の治療過程と回復までにおける看護の継続性について学び、看護師の役割を考え、意見を述べることができる。	各疾患の治療過程と回復までにおける看護の継続性について学び、看護師の役割を考えることができる。	各疾患の治療過程と回復までにおける看護師の役割を考えることができる。	各疾患の治療過程と回復までにおける看護の役割を学ぶことができる。	授業に参加しない/課題提出しない	③主体的に学習に取り組む態度	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れ自己の考えを深めより良い学習につなげる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。	授業を受けて、事後学習することが出来る	授業に参加しない/課題提出しない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																												
①知識・技術	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解するとともに、その疾患に対する看護と関連する技術を身に付ける。	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解するとともに、その疾患に対する看護を考えることができる。	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解し、その看護を学ぶことができる。	各器官の機能を理解し、機能障害、病態生理を理解することができる。	授業に参加しない/課題提出しない																												
②思考・判断・表現	各疾患の治療過程と回復までにおける看護の継続性について学び、看護師の役割を考え、意見を述べることができる。	各疾患の治療過程と回復までにおける看護の継続性について学び、看護師の役割を考えることができる。	各疾患の治療過程と回復までにおける看護師の役割を考えることができる。	各疾患の治療過程と回復までにおける看護の役割を学ぶことができる。	授業に参加しない/課題提出しない																												
③主体的に学習に取り組む態度	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れ自己の考えを深めより良い学習につなげる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。また対話的な学習から相手の意見を取り入れる事ができる。	予習してから授業に臨み、授業内で疑問点の確認が出来る。	授業を受けて、事後学習することが出来る	授業に参加しない/課題提出しない																												
評価の算出	定期考査：8割 (①、②) 提出物：2割 (③)																																
年間学習計画									評価の観点																								
学期	月	時数	単元・主な学習内容						①	②	③																						
前期	4～9	14	循環器 ① 循環器構造と機能、循環動態と調節機構 ② 循環器疾患に共通する症状 ③ 疾患の理解と治療 (不整脈、心不全、虚血性心疾患、血圧異常) ④ 疾患を抱える患者の看護 (治療、検査を受ける患者の看護、薬物療法) ⑤ 急性期・慢性期の看護 ⑥ セルフケア支援と患者教育 事例検討 (循環器疾患患者)						◎	◎	○																						
	9～12	11	内分泌・膠原病 検査 ① 内分泌系の構造と機能、内分泌疾患の合併症 (事例検討) ② 免疫のしくみとアレルギー反応・検査 ③ 主なアレルギー疾患・アナフラキシーと急変対応 ④ 自己免疫疾患 (膠原病) の病態 ⑤ 慢性経過と生活支援 (事例検討 (免疫・自己免疫))						◎	◎	○																						
後期		5	婦人科 ① 女性生殖器の構造・機能とライフステージ ② 主な婦人科疾患の病態と検査・治療 ③ 主なアレルギー疾患・アナフラキシーと急変対応 ④ 婦人科手術と周術期の看護 ⑤ 症状マネジメントと心理的支援 (事例検討)						◎	◎	○																						
	合計	30							◎	◎	○																						
学習方法・その他																																	
◎授業の受け方		・解剖生理学が基本となりますので、しっかり復習しておきましょう。 ・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかり理解するようにしましょう。 ・黒板に板書されないことも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																															
◎その他		・高校2・3年生の成人・老年看護学からつながる授業なので、今までの復習をしっかり行なって下さい。 ・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																															

教科	看護	学年	専2	科目	老年看護学各論	単位数	1(15)	必修																								
使用教科書	系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論																															
使用副教材																																
科目の目標	高齢者を生涯発達の視点で捉え、加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化、高齢者に多い機能障害や疾患、複数疾患との共生を含む健康の概念、個人差の拡大による多様な高齢者像を理解した上で、高齢者の尊厳と自立を重視した看護を保健医療福祉チームの一員として連携・協働して取り組むことができる																															
評価の観点	【知識・技術】 高齢者の特徴と看護について理解し、高齢者に関する技術を身に付ける事が出来る。 【思考・判断・表現】 高齢者の特徴に関わる多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 高齢者の特徴と看護について自ら学び、高齢者の健康の保持増進を目指して、主体的かつ協働的に取り組むことができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>高齢者の特徴と看護の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>高齢者の特徴と看護の適切な理解にはやや不足であるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>高齢者の特徴と看護の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>高齢者の特徴と看護について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる</td><td>高齢者の特徴と看護について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる</td><td>高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助について発表することができる</td><td>高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助の一部について発表することができる</td><td>高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる</td><td>高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出すことに不足あり、援助について発表することができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>予習・復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる</td><td>復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、協働的に取り組むことができる</td><td>復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、取り組むことができる</td><td>高齢者の健康の保持増進を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる</td><td>高齢者の健康の保持増進を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	高齢者の特徴と看護の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護の適切な理解にはやや不足であるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない	②思考・判断・表現	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助の一部について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出すことに不足あり、援助について発表することができない	③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる	復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、協働的に取り組むことができる	復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、取り組むことができる	高齢者の健康の保持増進を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	高齢者の健康の保持増進を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	高齢者の特徴と看護の適切な理解ができ、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護の適切な理解にはやや不足であるが理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護の主要点を理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護について一部理解でき、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができる	高齢者の特徴と看護について理解が得られなく、ケアについて工夫や応用の手段を学ぶことができない																											
②思考・判断・表現	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、倫理観を踏まえた援助について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出し、援助の一部について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出すことにやや不足ありながらも、援助の一部について発表することができる	高齢者の特徴に関わる多様な課題を見出すことに不足あり、援助について発表することができない																											
③主体的に学習に取り組む態度	予習・復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、主体的かつ協働的に取り組むことができる	復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、協働的に取り組むことができる	復習を行い、高齢者の健康の保持増進を目指し、取り組むことができる	高齢者の健康の保持増進を目指すことの視点に不足はあるが、基本的なものは取り組むことができる	高齢者の健康の保持増進を目指すことの視点に不足もあり、取り組みもできない																											
評価の算出																																
年間学習計画																																
学期	月	時数	単元・主な学習内容	①	②	③																										
前期	5	6	1老年看護学各論の位置づけ／老年期の健康課題の特徴 2老年症候群①老年症候群の定義／特徴／発生要因 3老年症候群②フレイル／サルコペニア／転倒・骨折 4栄養・嚥下低栄養／脱水／摂食嚥下機能低下 5排泄障害尿失禁／便秘／排泄援助と尊厳 6認知症総論認知症の定義／分類／経過	○	◎	○																										
	6	6	7認知症の症状中核症状／BPSD 8認知症高齢者の看護コミュニケーション／環境調整／安全確保 9急性期の高齢者看護せん妄／廃用症候群 10慢性期・薬物療法 多疾患併存／ポリファーマシー 11在宅療養高齢者在宅療養の特徴／訪問看護の役割 12高齢者と家族 老老介護／介護負担／家族支援	○	○	○																										
	7	2	13終末期看護人生の最終段階の看護／看取り 14意思決定支援・倫理ACP（人生会議）／尊厳／自己決定	○	○	○																										
	8	1	前期考査																													
後期	9																															
	10																															
	11																															
	12																															
後期	1																															
	2																															
	3																															
	合計	15																														
学習方法・その他																																
◎授業の受け方 ・プリントは重要箇所をまとめたものです。補足は口頭で説明するので、しっかりと話を聞き重要な部分はメモをしてください。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。																																
◎その他 ・国家試験の出題基準に準じた授業を行います。																																

教科	看護	学年	専2	科目	精神看護学各論	単位数	1 (25)	必修		
使用教科書	メヂカルフレンド社 精神看護学2 精神障害をもつ人の看護									
使用副教材										
科目の目標	精神の健康と障害について、精神医療の歴史及び精神保健医療福祉の変遷も踏まえて理解した上で、精神症状や精神に障害等がある人の権利擁護に努めるとともに、日常生活の困難さの軽減や自立した生活を送るための支援に関わる知識と技術を習得し、課題を見だし、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。									
評価の観点	【知識・技術】 精神に障害等がある人と家族の苦悩について、具体的な事例を通して学習することによって、共感的に理解するとともに、精神障害の予防や早期回復、セルフケア、社会復帰等に関する知識と技術を身に付けることが出来る。 【思考・判断・表現】 精神に障害等がある人の具体例を取り上げ、看護の職業倫理を踏まえ、人権の擁護や地域生活支援の制度の活用と生活の自立、セルフケアを目指す視点から考察するとともに、実施する援助の根拠を明確にして課題を解決する力を養うことが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 精神に障害等がある人の健康課題の解決に当たっては、社会生活への参加と自立、生活の質の向上を目指し、主体的かつ協働的に看護の実践に取り組む態度を養うことが出来る。									
			5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)			
	①知識・技術	精神症状を現す対象者の特徴を学び、治療的な対人関係への援助方法を適切に理解することが出来る	精神症状を現す対象者の特徴を学び、治療的な対人関係への援助方法を理解することが出来る	精神症状を現す対象者の特徴を学び、治療的な対人関係への援助方法をやや不足があるが理解することが出来る	精神症状を現す対象者の特徴を学び、治療的な対人関係への援助方法の一部を理解することが出来る	精神症状を現す対象者の特徴を学び、治療的な対人関係への援助方法など理解不足がある				
	②思考・判断・表現	精神症状を現している人の診療に伴う援助、日常生活及び社会生活の自立に向けて援助や家族への関わりについて考え、論理的に発表することができる	精神症状を現している人の診療に伴う援助、日常生活及び社会生活の自立に向けて援助や家族への関わりについて考え、発表することができる	精神症状を現している人の診療に伴う援助、日常生活及び社会生活の自立に向けて援助や家族への関わりについて考え、やや不足はあるが発表することができる	精神症状を現している人の診療に伴う援助、日常生活及び社会生活の自立に向けて発表に不足があるが、学習することは出来る	精神症状を現している人の診療に伴う援助、日常生活及び社会生活の自立に向けて援助や家族への関わりについて学習不足がある				
	③主体的に学習に取り組む態度	他の生徒の考えを聞き、自分の考えを振り返り、深めることが出来る。予習・復習を行い、理解を深める学習をすることができ、主体的に学習に取り組むことができる	他の生徒の考えを聞くことが出来る。復習を行い、理解を深める学習をすることができ、主体的に学習に取り組むことができる	他の生徒の考えを聞き、学ぶことが出来る。復習を行い、理解を深める学習をすることができ、主体的に学習に取り組むことができる	他の生徒の考えを聞くことが出来る。復習などを行わず、理解を深める学習をする姿勢が不十分さがみられる	他の生徒の考えを聞かず、復習など学習に取り組む態度に不足がある				
評価の算出										
年間学習計画								評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容					①	②	③
前期	4	11	精神看護対象者・状態像・精神科看護における安全管理・病棟環境の整備・自殺・自殺企図・自傷行為 包括的暴力防止プログラム (CVPPP) ・身体拘束中に想定される危険性に対策臨床検査・向精神病薬、薬物療法、有害作用一覧・修正型電気けいれん療法 統合失調症(事例検討)					◎	◎	○
	5	6								
	7	7	精神疾患患者との関わり方、転移や逆転移、振り返ることの意味、精神科リハビリテーションの展開、認知行動療法 精神運動興奮、アルコール依存症 疾患をもつ対象の看護					◎	◎	○
	8	9	知覚の障害、思考の障害、感情の障害、意欲・行動の障害、自我意識の障害、記憶の障害 精神障害をもつ人とのコミュニケーション					◎	◎	○
後期	10	4	不安症、神経性やせ症、パーソナリティ障害、気分感情障害、双極性感情障害 疾患をもつ対象の看護					◎	◎	○
	11	1	国試対策・障害者総合支援法によるサービス体系について追加復習 後期中間審査					◎	◎	○
	12									
	1 2 3 合計	25								
学習方法・その他										
◎授業の受け方										
・4年生での医師講義による精神看護学各論が基本となりますので、しっかり復習してから授業を受けましょう。										
・疾患・検査・看護の学習内容は全て関連しています。基本事項をしっかりと理解するようにしましょう。										
・黒板に板書されないことでも重要なことを言っている場合があります。しっかりと話を聞き、重要な部分はメモをしてください。										
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。										
◎その他										
・教科書を使用しながら、国家試験の出題基準に準じた授業を行います。										

教科	看護	学年	専2	科目	【新カリ】看護の統合と実践(国際看護)	単位数	1(15)	必修
使用教科書	医学書院	看護の統合と実践	災害看護学・国際看護学					
使用副教材	なし							
科目の目標	グローバルヘルスや国際協力の仕組み、文化を考慮した看護として国際看護の基礎知識を身に付け、諸外国との協力を初めとした国際看護活動を考察する力を養う。							
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 看護活動を行う組織の一員として、健康に影響する因子の関係性について理解を深め改善するための知識と技術を身に付けることが出来る。							
	【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 看護の対象の多様性を理解し、文化を考慮した看護を身に付け、文化と価値観の多様性を理解して適切な看護介入し解決する力を養うことが出来る。							
	【主体的に学習に取り組む態度】 看護職が果たすべき役割を踏まえ、人々の健康向上と格差是正を目指して、多職種と連携・協働し、主体的に取り組む態度を養うことが出来る。							
		5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)		
	①知識・技術	国際看護の基本を身近な問題と関連付けて知識と技術を身に付けることができる。	国際看護の基本を身近な問題と関連付けて知識を身に付けることができる。	国際看護の基本を身近な問題と関連付けて考えることができる。	国際看護の基本を理解することができる。	授業に参加しない/課題提出しない。		
②思考・判断・表現	看護を実践する場合の多様な課題について、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて解決することができる。	看護を実践する場合の多様な課題について、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて考えることができる。	看護を実践する場合の多様な課題について、倫理原則を踏まえて考えることができる。	看護を実践する場合の多様な課題について、考えることができる。	授業に参加しない/課題提出しない。			
③主体的に学習に取り組む態度	看護職が果たすべき役割を踏まえ、多職種と連携・協働しながら人々の健康の保持増進を目指すことを理解し、主体的に具体策を考えることができる。	看護職が果たすべき役割を踏まえ、多職種との連携・協働について理解し、主体的に具体策を考えることができる。	看護職が果たすべき役割を踏まえ、人々の健康の保持増進を目指すための具体策を考えることができる。	看護職が果たすべき役割を考えることができる。	授業に参加しない/課題提出しない。			
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度等から総合的に評価する。							
年間学習計画						評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③
前期	4～9	4	看護とグローバル化 ① グローバリゼーションの概念、視点 国際看護学について ①必要となる要因、定義、目的、対象			◎	○	○
		3	国際看護学における看護理論 ①異文化看護理論について 看護の国際組織と実践 ①組織、国際活動に必要な能力			◎	○	○
後期	10～12	4	グローバルヘルスについて ①概念、国際保健活動 ②主な指標			○	○	◎
		3	国際協力について ①種類、しくみ 国際的な緊急救援における看護展開 後期中間考査			○	◎	○
合計		15				◎	◎	◎
学習方法・その他								
◎授業の受け方 ・地球上で健康に関する問題として何が起きているか、新聞やニュースなど多くの情報に関心を持って聞いていきましょう。 ・健康と関係する事柄として疾病だけではなく、人口や環境・社会情勢についても重要性を考えていきましょう。 ・文化を理解した看護の基本的な技術をふまえ、状況に応じた優先度や判断力を身に付けて行きましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・国際的な組織による活動が身近でどのように行われているか調べてみましょう。 ・これからの国際協力について考え、関心も持って学習しましょう。								

教科	看護	学年	専2	科目	看護の統合と実践(看護管理)	単位数	1(30)	必修					
使用教科書	系統看護学講座 専門 看護管理												
使用副教材	なし												
科目の目標	(1) 看護の対象者への質の高いケアを提供するための管理システムについて学ぶことができる。												
	(2) 組織の一員として必要なチームワークやリーダーシップなど具体的な方法を考え学ぶことが出来る。												
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 看護におけるマネジメントについて理解を深め改善するための知識と技術を身に付ける事が出来る。												
	【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 看護におけるマネジメントについて多様な課題を発見し、適切な介入方法を考え解決する力を養うことが出来る。												
	【 主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度 】 看護におけるマネジメントについて自ら学び、多職種と連携・協働し、主体的に取り組む態度を養うことが出来る。												
	①知識・技術	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)							
	②思考・判断・表現	看護におけるマネジメントの多様な課題について発見し、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて解決することができる。	看護におけるマネジメントの多様な課題について、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて考えることができる。	看護におけるマネジメントの多様な課題について、倫理原則を踏まえて考えることができる。	看護におけるマネジメントの多様な課題について、考えることができる。	看護におけるマネジメントの多様な課題について、考えることができない。							
③主体的に学習に取り組む態度	看護におけるマネジメントについて自ら学び、多職種と連携・協働しながら健康の保持増進を目指すことを理解し、主体的に具体策を考えることができる。	看護におけるマネジメントについて自ら学び、多職種との連携・協働について理解し健康の保持増進に向けて、主体的に具体策を考えることができる。	看護におけるマネジメントについての役割を踏まえ、人々の健康の保持増進を目指すための具体策を考えることができる。	看護におけるマネジメントの役割を考えることができる。	看護におけるマネジメントの役割を考えることができない。								
評価の算出	定期考査、小テスト・提出物・授業態度等で総合的に評価する。												
年間学習計画													
学期	月	時数	単元・主な学習内容					評価の観点					
	4～9	7	第1章 看護におけるマネジメント ○看護管理学とは ・看護管理とは、看護におけるマネジメントの必要性 ○看護とマネジメント ・マネジメントの考えと変遷（近代組織論、システム論） 第2章 看護ケアのマネジメント ○看護ケアのマネジメントと看護職の機能 ・看護ケアの提供者としての機能、提供されるケアをマネジメントするものとしての機能） ○患者の権利の尊重 ・患者の権利、インフォームドコンセント、意思決定支援 ○安全管理 ・安全管理の仕組み、医療事故対策、院内感染対策 ○看護業務の実践 ・看護基準と手順、クリティカルパス、情報の活用、日常業務のマネジメント、EBN					①	②	③			
前期		7	第3章 看護職としてのマネジメント ○看護職のキャリア形成 ・キャリア開発、キャリアラダー ○看護専門職としての成長 ・社会化、タイムマネジメント ○健康管理、ストレスマネジメント ○考査					○	○	◎			
		15	第4章 看護サービスのマネジメント ○組織としての目的達成のマネジメント ・理念の形成と浸透、組織化、看護部門の組織、 ○看護サービス提供のしくみ作り ・看護単位 ○看護サービスの提供方式 ○人材のマネジメント ・組織の人材育成、人材フローのマネジメント、労働環境 ○物品のマネジメント ・医薬品の取り扱いと管理、廃棄物の取り扱いと管理 ○情報のマネジメント ・情報の管理、守秘義務、プライバシーと個人情報保護、情報開示への対応 ○組織におけるリスクマネジメント ・事業継続計画、災害サイクルから見た災害医療 ○サービスの評価 ・医療におけるサービスの質の評価 第5章 マネジメントに必要な知識と技術 ○マネジメントの基礎知識 ・マネジメントプロセス ○組織とマネジメント ・組織構造と組織原則 ○リーダーシップとマネジメント ・リーダーシップの定義、特性理論、行動理論、コンティンジェンシー理論、コンセプト理論 ○組織の調整 ・コミュニケーション、動機付け、パワーとエンパワメント、コンフリクト 第6章 看護を取り巻く諸制度 ○看護職のキャリア形成 ・看護職の定義、専門職性、法と制度、職業倫理と法的責任、専門性の高い看護職の養成および認定制度 ○医療制度 ・医療法、診療報酬、 ○看護制度と政策 ・看護制度に関する検討					◎	○	○	○	○	○
後期		1	後期中間考査					◎					
	合計	30											
学習方法・その他													
◎授業の受け方													
・看護職における責任を自覚し、他職種との協働の必要性を認識していきましょう。													
・医療や看護に対する社会的期待や批判等目を向け、家族の立場で医療を考えることをしてみましょう。													
・対象の権利をふまえ、看護職としての在り方考えをていきましょう。													
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。”													

[illegible]

教科	看護	学年	専2	科目	看護臨床実習(地域・在宅看護論実習)	単位数	2(90)	必修			
使用教科書	なし										
使用副教材											
科目の目標	地域で生活するあらゆるライフサイクルにいる健康上に関する問題点や家族を理解し、看護の役割や在宅における看護の展開に必要な基礎知識・技術・態度を習得する。										
評価の観点	【知識・技術】	地域・在宅看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解すると共に、多職種との連携のあり方や必要な技術を身に付けることができる。									
	【思考・判断・表現】	チーム医療や多職種・保健医療福祉との連携・協働の必要性を踏まえ多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。									
	【主体的に学習に取り組む態度】地域・在宅看護領域における看護実践について自ら学び、人々の健康を保持増進するために主体的かつ協働的に取り組むことができる。										
		5(期待している以上である)	4(十分に満足できる) 履修目標	3(やや努力を要する)	2(努力を要する) 到達目標	1(相当の努力を要する)					
	①知識・技術	地域で生活している人々の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解し、療養者に応じた援助を考え、看護技術を患者の反応に応じて安全・安楽に提供できる。	地域で生活している人々の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解し、療養者に応じた援助を考え、看護技術を安全・安楽に提供できる。	地域で生活している人々の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解し、療養者に応じた援助を考え、看護技術を提供できる。	地域で生活している人々の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解に不足があるが、療養者に応じた援助を考え、看護技術を提供できる。	地域で生活している人々の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解に不足があり、療養者に応じた援助を提供できない。					
②思考・判断・表現	地域で生活している対象者の全体像から問題を見出し、個別性のある援助を提供した、指導を対象者の理解度を確保しながら行うことができる。	地域で生活している対象者の全体像から問題を見出し、個別性のある援助を提供した、指導を対象者の状況を確認しながら行うことができる。	地域で生活している対象者の全体像から問題を見出し、個別性のある援助を提供した、指導を行うことができる。	地域で生活している対象者の全体像から問題を見出し、援助や指導を行うことができる。	地域で生活している対象者の全体像をとらえられず、問題点を出すことができず、看護計画の立案、援助の実施ができない。						
③主体的に学習に取り組む態度	実習記録物を適切かつ確に記録し時間を厳守でき、必要な報告・連絡・相談ができるとともに自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を的確さには指導が必要であるが適切に記録し時間内に提出、報告・連絡・相談もでき、自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を記録し時間内に提出でき、報告・連絡・相談も必要時で、自己の健康管理も留意し欠席においても事前相談でき、守秘義務の厳守や関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物の記録内容が不十分であり、提出時間も遅れることがあり、報告・連絡・相談、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度に不十分さがみられる	実習記録物を記録できず、提出できないことや報告・連絡・相談ができず、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度が不足している						
評価の算出	提出物、看護過程の展開状況、実習態度等で総合的に評価する。										
年間学習計画									評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容						①	②	③
前期	4		○事前学習の確認、実技練習、実習オリエンテーション								
	5		・事前学習の確認・指導、実技練習指導						◎	◎	○
	6		・実習オリエンテーション						◎	○	
	7		・地域・在宅看護論実習Ⅰ1週間(5月中旬) 保健所・保健福祉センター・市役所・校内演習						○	◎	◎
	8		○領域別実習(5月下旬～11月上旬)								
9	・地域・在宅看護論実習1週間 訪問看護ステーション						◎	◎	◎		
後期	10										
	11										
	12										
	1										
	2										
	3										
	合計	90									
学習方法・その他											
◎授業の受け方											
・実習の目標と自己目標をしっかりと踏まえて臨みましょう。 ・事前学習や疾患学習及び訪問看護に関する技術について理解を深めて行きましょう。 ・わからないことは積極的に訪問看護師に聞いたり調べるなどしていきましょう。 ・療養者や家族についての看護の必要性を考えましょう。											
◎その他											
・多職種での連携や介護保険など、地域でどのように行われているかの理解に努めましょう。 ・学生らしい態度と謙虚な姿勢を忘れず、積極的に行動しましょう。											

教科	看護	学年	専2	科目	公衆衛生	単位数	2(30)	必修																								
使用教科書	系統看護学講座・専門基礎分野・公衆衛生（健康支援と社会保障制度2）〔医学書院〕																															
使用副教材	国民衛生の動向																															
科目の目標	集団を対象として疾病を予防し健康の保持増進を図る看護活動の学習を通して、生活環境や生活行動と健康の関連を体系的・系統的に理解する。健康支援に関する基本的な課題を発見し、合理的かつ創造的に解決する力や、よりよい看護の実践を目指して、多様な生活背景をもつ人々が適切に健康管理を行うために必要な支援の実施に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。																															
評価の観点	【知識・技能】公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができる。 【思考・判断・表現】基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。発問に対して、自らの意見を発言することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】生徒自ら適切な挨拶をすることができる。提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。意欲的に授業に参加することができる。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識及び技能</td><td>・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解し、日常生活に活用することができる。</td><td>・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解し、日常生活に活用する努力が見られる。</td><td>・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができる。</td><td>・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を助言により、理解することができる。</td><td>・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができない。</td></tr><tr><td>②思考力・判断力・表現力等</td><td>・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考察し、自ら課題を見いだし解決することができる。 ・自発的に意見を発言し、発言内容が理論的である。</td><td>・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考察することができる。 ・自発的に発言することができる。</td><td>・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。 ・発問に対して、自らの意見を発言することができる。</td><td>・基礎知識をもとに、助言により、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。 ・助言により、発言することができる。</td><td>・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができない。 ・助言を受けても、自分の意見を発言することができない。</td></tr><tr><td>③学びに向かう力、人間性等</td><td>・生徒自ら目標を合わせ、適切な声量で挨拶ができ、好印象をあたえることができる。 ・提出物の内容が指導内容以上のものであり、丁寧かつ詳細に記載されており、期限内に提出することができる。 ・予習・復習を自ら行い、クラスメイトに対して助言を行うなど、意欲的に授業に参加することができる。</td><td>・生徒自ら目標を合わせ、適切な声量で挨拶ができる。 ・提出物の内容が丁寧かつ詳細に記載されており、期限内に提出することができる。 ・予習・復習を自ら行い、意欲的に授業に参加することができる。</td><td>・生徒自ら適切な声量で挨拶をすることができる。 ・提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。 ・意欲的に授業に参加することができる。</td><td>・挨拶をすることができる。 ・提出物の内容が不十分であるが、期限内に提出することができる。 ・指導により、意欲的に授業に参加することができる。</td><td>・挨拶をすることができない。 ・提出物の内容が不十分であり、かつ期限を守れていない。 ・意欲的に授業に参加することができない。</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識及び技能	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解し、日常生活に活用することができる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解し、日常生活に活用する努力が見られる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を助言により、理解することができる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができない。	②思考力・判断力・表現力等	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考察し、自ら課題を見いだし解決することができる。 ・自発的に意見を発言し、発言内容が理論的である。	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考察することができる。 ・自発的に発言することができる。	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。 ・発問に対して、自らの意見を発言することができる。	・基礎知識をもとに、助言により、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。 ・助言により、発言することができる。	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができない。 ・助言を受けても、自分の意見を発言することができない。	③学びに向かう力、人間性等	・生徒自ら目標を合わせ、適切な声量で挨拶ができ、好印象をあたえることができる。 ・提出物の内容が指導内容以上のものであり、丁寧かつ詳細に記載されており、期限内に提出することができる。 ・予習・復習を自ら行い、クラスメイトに対して助言を行うなど、意欲的に授業に参加することができる。	・生徒自ら目標を合わせ、適切な声量で挨拶ができる。 ・提出物の内容が丁寧かつ詳細に記載されており、期限内に提出することができる。 ・予習・復習を自ら行い、意欲的に授業に参加することができる。	・生徒自ら適切な声量で挨拶をすることができる。 ・提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。 ・意欲的に授業に参加することができる。	・挨拶をすることができる。 ・提出物の内容が不十分であるが、期限内に提出することができる。 ・指導により、意欲的に授業に参加することができる。	・挨拶をすることができない。 ・提出物の内容が不十分であり、かつ期限を守れていない。 ・意欲的に授業に参加することができない。
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識及び技能	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解し、日常生活に活用することができる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解し、日常生活に活用する努力が見られる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を助言により、理解することができる。	・公衆衛生の基本と生活環境と健康に関する内容を理解することができない。																											
②思考力・判断力・表現力等	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考察し、自ら課題を見いだし解決することができる。 ・自発的に意見を発言し、発言内容が理論的である。	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考察することができる。 ・自発的に発言することができる。	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。 ・発問に対して、自らの意見を発言することができる。	・基礎知識をもとに、助言により、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができる。 ・助言により、発言することができる。	・基礎知識をもとに、実際の患者と照らし合わせて物事を考えることができない。 ・助言を受けても、自分の意見を発言することができない。																											
③学びに向かう力、人間性等	・生徒自ら目標を合わせ、適切な声量で挨拶ができ、好印象をあたえることができる。 ・提出物の内容が指導内容以上のものであり、丁寧かつ詳細に記載されており、期限内に提出することができる。 ・予習・復習を自ら行い、クラスメイトに対して助言を行うなど、意欲的に授業に参加することができる。	・生徒自ら目標を合わせ、適切な声量で挨拶ができる。 ・提出物の内容が丁寧かつ詳細に記載されており、期限内に提出することができる。 ・予習・復習を自ら行い、意欲的に授業に参加することができる。	・生徒自ら適切な声量で挨拶をすることができる。 ・提出物を過不足無く、期限内に提出することができる。 ・意欲的に授業に参加することができる。	・挨拶をすることができる。 ・提出物の内容が不十分であるが、期限内に提出することができる。 ・指導により、意欲的に授業に参加することができる。	・挨拶をすることができない。 ・提出物の内容が不十分であり、かつ期限を守れていない。 ・意欲的に授業に参加することができない。																											
評価の算出	定期考査：9割 提出物・その他(授業態度など)：1割																															
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4																															
	5	14	外部講師 健康の概念、公衆衛生の目的、健康に関する要因と病気の発生、特に生活習慣病のリスク要因について、健康指標（保険統計・健康増進施策・少子高齢化・国民医療費・衛生行政と保健活動） 世界保健機関（WHO）が定義する健康 高齢者対象の統計・死因順位・平均寿命・家族の世帯構造・年齢3区分別人口構成割合・高齢化率・合計特殊出生率 日本における令和4年（2022年）の部位別にみた悪性新生物（腫瘍）の死亡数・子どもの死因・死亡場所・健康寿命・外来受療率・有訴者率・平均在院日数・感染症と保健所への届出期間			◎	◎	○																								
	6																															
	7																															
	8 9																															
後期	10																															
	11	16	国試対策・前期の復習 世界保健機関（WHO）が定義する健康・高齢者対象の統計・死因順位・平均寿命・家族の世帯構造・年齢3区分別人口構成割合・高齢化率・合計特殊出生率 日本における令和4年（2022年）の部位別にみた悪性新生物（腫瘍）の死亡数・子どもの死因・死亡場所・健康寿命・外来受療率・有訴者率・平均在院日数 感染症と保健所への届出期間			◎	◎	○																								
	12																															
	1 2 3																															
	合計	30																														
学習方法・その他																																
◎授業の受け方 ・ワークシートを用いて授業を進めます。配布したワークシートはファイルにまとめて保存してください。 ・知識の蓄積が重要になりますので、授業後は必ず復習をしてください。 ・重要なことを口頭で説明する場合もあります。メモを取る、マーカーを引く等の工夫をしてください。 ・授業態度も評価の対象となります。意欲的に授業に臨みましょう。																																
◎その他 ・自分の身の回りや環境と関わるの深い内容を勉強します。学んだことを日常生活に活かしていきます。																																

教科	看護	学年	専2	科目	看護臨床実習(成人看護臨床実習)	単位数	5(225)	必修																								
使用教科書	なし																															
使用副教材																																
科目の目標	看護の見方・考え方を働かせ、臨床において実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を体系的・系統的に理解することを目指す。また、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協動的に取り組む姿勢を養う。																															
評価の観点	【知識・技術】 成人看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解すると共に、関連する技術を身に付けることが出来る。 【思考・判断・表現】 成人看護領域における看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 成人看護領域における看護実践について自ら学び、人々の健康を保持増進するために主体的かつ協動的に取り組むことが出来る。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる) 履修目標</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する) 到達目標</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を患者の反応に応じて安全・安楽に提供できる</td><td>成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を安全・安楽に提供できる</td><td>成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した援助計画を作成し、看護技術を実施できる</td><td>成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解について不十分なところがあるが、援助計画を作成し、看護技術を実施できる</td><td>成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解不足により、看護技術が実施できない</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>成人期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画が的確に立案でき、個別性のある援助を提供できる。また、指導を対象者の理解度を確認しながら行うことができる</td><td>成人期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画を立案し、個別性のある援助を提供できる。また、必要時患者指導を実践できる</td><td>成人期にある対象者の全体像から問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる</td><td>成人期にある対象者の全体像の理解に不足はあるが問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる</td><td>成人期にある対象者の全体像をとらえられず、問題点を挙げるができず、看護計画の立案、援助の実施ができない</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>実習記録物を適切かつ確に記録し時間を厳守でき、必要な報告・連絡・相談ができるとともに自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる</td><td>実習記録物を的確さには指図が必要であるが適切に記録し時間内に提出、報告・連絡・相談もでき、自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる</td><td>実習記録物を記録し時間内に提出でき、報告・連絡・相談も必要時でき、自己の健康管理も留意し欠席においても事前相談でき、守秘義務の厳守や関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる</td><td>実習記録物の記録内容が不十分であり、提出時間も遅れることがあり、報告・連絡・相談、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度に不十分さがみられる</td><td>実習記録物を記録できず、提出できないことや報告・連絡・相談ができず、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度が不足している</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる) 履修目標	3(やや努力を要する)	2(努力を要する) 到達目標	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を患者の反応に応じて安全・安楽に提供できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を安全・安楽に提供できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した援助計画を作成し、看護技術を実施できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解について不十分なところがあるが、援助計画を作成し、看護技術を実施できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解不足により、看護技術が実施できない	②思考・判断・表現	成人期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画が的確に立案でき、個別性のある援助を提供できる。また、指導を対象者の理解度を確認しながら行うことができる	成人期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画を立案し、個別性のある援助を提供できる。また、必要時患者指導を実践できる	成人期にある対象者の全体像から問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	成人期にある対象者の全体像の理解に不足はあるが問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	成人期にある対象者の全体像をとらえられず、問題点を挙げるができず、看護計画の立案、援助の実施ができない	③主体的に学習に取り組む態度	実習記録物を適切かつ確に記録し時間を厳守でき、必要な報告・連絡・相談ができるとともに自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を的確さには指図が必要であるが適切に記録し時間内に提出、報告・連絡・相談もでき、自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を記録し時間内に提出でき、報告・連絡・相談も必要時でき、自己の健康管理も留意し欠席においても事前相談でき、守秘義務の厳守や関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物の記録内容が不十分であり、提出時間も遅れることがあり、報告・連絡・相談、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度に不十分さがみられる	実習記録物を記録できず、提出できないことや報告・連絡・相談ができず、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度が不足している
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる) 履修目標	3(やや努力を要する)	2(努力を要する) 到達目標	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を患者の反応に応じて安全・安楽に提供できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した個別性のある援助計画を作成し、看護技術を安全・安楽に提供できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性を理解した援助計画を作成し、看護技術を実施できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解について不十分なところがあるが、援助計画を作成し、看護技術を実施できる	成人期の特徴を踏まえた対象者の援助の必要性の理解不足により、看護技術が実施できない																											
②思考・判断・表現	成人期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画が的確に立案でき、個別性のある援助を提供できる。また、指導を対象者の理解度を確認しながら行うことができる	成人期にある対象者の全体像から問題を見出し、看護計画を立案し、個別性のある援助を提供できる。また、必要時患者指導を実践できる	成人期にある対象者の全体像から問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	成人期にある対象者の全体像の理解に不足はあるが問題点を見出し、看護計画を立案し、援助を実践できる	成人期にある対象者の全体像をとらえられず、問題点を挙げるができず、看護計画の立案、援助の実施ができない																											
③主体的に学習に取り組む態度	実習記録物を適切かつ確に記録し時間を厳守でき、必要な報告・連絡・相談ができるとともに自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を的確さには指図が必要であるが適切に記録し時間内に提出、報告・連絡・相談もでき、自己の健康管理に留意し、守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物を記録し時間内に提出でき、報告・連絡・相談も必要時でき、自己の健康管理も留意し欠席においても事前相談でき、守秘義務の厳守や関係者を尊重した態度で実習に臨むことができる	実習記録物の記録内容が不十分であり、提出時間も遅れることがあり、報告・連絡・相談、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度に不十分さがみられる	実習記録物を記録できず、提出できないことや報告・連絡・相談ができず、自己の健康管理や守秘義務の厳守、関係者を尊重した態度が不足している																											
評価の算出	提出物、看護過程の展開状況、実習態度等で総合的に評価する。																															
年間学習計画																																
学期	月	時数	単元・主な学習内容				評価の観点																									
前期	4	45	○事前学習の確認、実技練習、実習オリエンテーション ・事前学習の確認・指導、実技練習指導				①	②	③																							
	5	180	・実習オリエンテーション ○領域別実習（5月下旬～11月上旬） ・成人看護学実習 4週間（看護過程の展開）				◎	○	○																							
	6		◎	◎	◎																											
	7																															
	8																															
9																																
後期	10																															
	11																															
	12																															
	1																															
	2																															
	3																															
	合計	225																														
学習方法・その他																																
◎授業の受け方 ・実習の目標と自己目標をしっかりと踏まえて臨みましょう。 ・事前学習や疾患学習及び技術練習は計画的に取り組んで行きましょう。 ・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。 ◎その他 ・グループでの協力が大事になりますので、お互いメンバーへの関心を持つようにしましょう。 ・学生らしい態度と謙虚な姿勢を忘れず、積極的に行動しましょう。 ・来年は専門職者として社会人になることをしっかりと認識して行動しましょう。																																

教科	看護	学年	専2	科目	小児看護学臨床実習	単位数	2(90)	必修
使用教科書	なし							
使用副教材	なし							
科目の目標	対象の健康の回復・保持・増進を支持するための看護活動を総合的に実習し、あらゆる健康段階及び発達段階にある対象に適した看護を実践できる判断力と技術を養い、専門職業人としての理解を深める。小児看護においては、科の特徴を理解し、対象の発達段階に合わせた看護を展開することができる。							
評価の観点	【知識・技術】	小児の成長・発達の特徴及び各発達段階における健康課題を理解し、自立に向けた日常生活の援助、健康障害に伴う診療の援助、 小児の発達段階に応じた分かりやすい説明の工夫ができる。						
	【思考・判断・表現】	小児の領域における看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす事ができる。						
	【主体的に学習に取り組む態度】	小児領域において発達段階に応じた看護実践を自ら学び、人々の健康を保持増進するために主体的かつ協動的に取り組むことができる。						
		5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)		
	①知識・技術	小児の成長・発達の特徴及び各発達段階における健康課題を理解し、健康障害に伴う診療の援助、プレパレーションを実施することができる。	小児の成長・発達の特徴及び各発達段階における健康課題を理解し、健康障害に伴う診療の援助、プレパレーションを学ぶことができる。	小児の成長・発達の特徴及び各発達段階における健康課題を理解し、診療の援助を学ぶことができる。	小児の成長・発達の特徴及び各発達段階における健康課題を理解することができる。	小児の発達段階が理解できない。		
②思考・判断・表現	疾病・治療の影響を最小限に抑えて成長・発達を促す援助のために、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだし実践することができる。	疾病・治療の影響を最小限に抑えて成長・発達を促す援助のために、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだす事ができる。	疾病・治療の影響を最小限に抑えて成長・発達を促す援助のために、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を考える事ができる。	疾病・治療の影響を最小限に抑えて成長・発達を促す援助のために、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を考える事ができる。	問題点の抽出ができない。			
③主体的に学習に取り組む態度	小児領域において発達段階に応じた看護実践を自ら学び、それに応じた分かりやすい説明の工夫、小児の主体的な治療参加の支援など、患児の健康を保持増進するために主体的かつ協動的に取り組むことができる。	小児領域において発達段階に応じた看護実践を自ら学び、それに応じた分かりやすい説明の工夫、小児の主体的な治療参加の支援など、患児の健康を保持増進するために主体的に取り組むことができる。	小児領域において発達段階に応じた看護実践を自ら学び、それに応じた分かりやすい説明の工夫や小児の主体的な治療参加の支援の方法を主体的に考えることができる。	小児領域において発達段階に応じた看護実践を自ら学び、それに応じた分かりやすい説明の工夫を主体的に考えることができる。	発達段階が理解できず、主体的に考えようとしにくい。			
評価の算出	提出物、看護過程の展開状況、実習態度等で総合的に評価する。							
年間学習計画						評価の観点		
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③
前期	4		○事前学習の確認、実技練習、実習オリエンテーション					
	5		・事前学習の確認・指導、実技練習指導			◎	◎	◎
	6		・実習オリエンテーション			◎		○
	7		○領域別実習（5月下旬～11月上旬）					
	8		・小児看護学実習 2週間（看護過程の展開）			◎	◎	◎
後期	9							
	10							
	11							
	12							
	1							
	2							
	3							
	合計	90						
学習方法・その他								
◎授業の受け方								
・実習の目標と自己目標をしっかりと踏まえて臨みましょう。								
・事前学習や疾患学習及び技術練習は計画的に取り組んで行きましょう。								
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。								
◎その他								
・グループでの協力が大事になりますので、お互いメンバーへの関心を持つようにしましょう。								
・学生らしい態度と謙虚な姿勢を忘れず、積極的に行動しましょう。								
・来年は専門職者として社会人になることをしっかりと認識して行動しましょう。								

教科	看護	学年	専2	科目	母性看護実習（臨地）	単位数	2(90)	必修																								
使用教科書	なし																															
使用副教材	なし																															
科目の目標	対象の健康の回復・保持・増進を支持するための看護活動を総合的に実習し、あらゆる健康段階及び発達段階にある対象に適した看護を実践できる判断力と技術を養い、専門職業人としての理解を深める。母性看護においては、科の特徴を理解し、周産期における看護を展開することができる。																															
評価の観点	【 知 識 ・ 技 術 】 母性の各期の特徴及び健康課題を理解し、指導のもとで安全に配慮した関わりや援助を行うことができる。 【 思 考 ・ 判 断 ・ 表 現 】 対象の状態や経過を踏まえ、問題点や課題を把握し、その要因や背景を考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 母性の特性を理解し、対象の尊厳やプライバシーに配慮しながら、安全・安心を意識して実習に取り組もうとしている。 <table><tr><td></td><td>5(期待している以上である)</td><td>4(十分に満足できる)</td><td>3(やや努力を要する)</td><td>2(努力を要する)</td><td>1(相当の努力を要する)</td></tr><tr><td>①知識・技術</td><td>母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助やハイリスクに伴う診療の援助を実施することができる。</td><td>母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助やハイリスクに伴う診療の援助を学ぶことができる。</td><td>母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができる。</td><td>母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができる。</td><td>母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができない。</td></tr><tr><td>②思考・判断・表現</td><td>母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだし実践することができる。</td><td>母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。</td><td>母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を考えることができる。</td><td>母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。</td><td>問題点の抽出ができない。</td></tr><tr><td>③主体的に学習に取り組む態度</td><td>母性の特性を踏まえ、対象や家族への尊厳・プライバシーに配慮し安全・安心を最終戦に考えながら、主体的に実習に取り組んでいる。</td><td>母性の特性を理解し、指導を受けながら対象や家族への配慮を意識し、安全安心には配慮した行動が安定してみられる。</td><td>指導を受けながら実習に取り組む、母性の特性や配慮の必要性を意識しながら学習を進めている。</td><td>実習を通して、母性の特性や対象・家族への配慮について学びを深めている。</td><td>実習経験を通して、母性の特性や配慮の重要性に気づき始めている。</td></tr></table>									5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)	①知識・技術	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助やハイリスクに伴う診療の援助を実施することができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助やハイリスクに伴う診療の援助を学ぶことができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができない。	②思考・判断・表現	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだし実践することができる。	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を考えることができる。	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。	問題点の抽出ができない。	③主体的に学習に取り組む態度	母性の特性を踏まえ、対象や家族への尊厳・プライバシーに配慮し安全・安心を最終戦に考えながら、主体的に実習に取り組んでいる。	母性の特性を理解し、指導を受けながら対象や家族への配慮を意識し、安全安心には配慮した行動が安定してみられる。	指導を受けながら実習に取り組む、母性の特性や配慮の必要性を意識しながら学習を進めている。	実習を通して、母性の特性や対象・家族への配慮について学びを深めている。	実習経験を通して、母性の特性や配慮の重要性に気づき始めている。
	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)																											
①知識・技術	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助やハイリスクに伴う診療の援助を実施することができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助やハイリスクに伴う診療の援助を学ぶことができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができる。	母性各期の特徴及び健康課題を理解し、順調に経過し適応する援助や診療の援助を学ぶことができない。																											
②思考・判断・表現	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだし実践することができる。	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を考えることができる。	母性各期への影響を最小限に抑えて順調に経過するための援助に向けて、対象の問題点、課題を発見し、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。	問題点の抽出ができない。																											
③主体的に学習に取り組む態度	母性の特性を踏まえ、対象や家族への尊厳・プライバシーに配慮し安全・安心を最終戦に考えながら、主体的に実習に取り組んでいる。	母性の特性を理解し、指導を受けながら対象や家族への配慮を意識し、安全安心には配慮した行動が安定してみられる。	指導を受けながら実習に取り組む、母性の特性や配慮の必要性を意識しながら学習を進めている。	実習を通して、母性の特性や対象・家族への配慮について学びを深めている。	実習経験を通して、母性の特性や配慮の重要性に気づき始めている。																											
評価の算出	提出物：1割(①) 臨地実習：9割(①～③)																															
年間学習計画						評価の観点																										
学期	月	時数	単元・主な学習内容			①	②	③																								
前期	4		○事前学習の確認、実技練習、実習オリエンテーション																													
	5		・事前学習の確認・指導、実技練習指導			◎	◎	◎																								
	6		・実習オリエンテーション			◎		○																								
	7		○領域別実習（5月下旬～11月上旬）																													
	8		・母性看護学実習 2週間（看護過程の展開）			◎	◎	◎																								
9		・実習期間に応じて実施																														
後期	10																															
	11																															
	12																															
	1																															
	2																															
3																																
合計	90																															
学習方法・その他																																
◎授業の受け方 対象の健康状態や経過を踏まえ、母性各期における健康の保持・増進をを意図して看護過程を展開しましょう。																																
◎その他 母性の特性を踏まえ、より丁寧な配慮が求められる。																																

教科	看護	学年	専2	科目	看護臨床実習(精神看護学)	単位数	2(90)	必修
使用教科書	なし							
使用副教材								
科目の目標	看護の見方・考え方を働かせ、臨床において実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、看護の実践に必要な資質・能力を体系的・系統的に理解することを目指す。また、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の安全安楽を守り、健康の保持増進と生活の質の向上に主体的かつ協動的に取り組む姿勢を養う。							
評価の観点	【知識・技術】 精神看護領域における看護実践と理論を結び付けて理解すると共に、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 精神看護領域における看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 精神看護領域における看護実践について自ら学び、人々の健康を保持増進するために主体的かつ協動的に取り組むことができる。							

教科	看護	学年	専2	科目	臨床実習（看護の統合と実践）	単位数	2(90)	必修		
使用教科書	なし									
使用副教材	看護管理（医学書院）、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ（医学書院）									
科目の目標	領域別に学習した看護実践における全ての知識と技術の統合を図るとともに、看護の見方・考え方についても実践的・体験的な学習活動を通して安全管理や多職種との連携などを考慮しながら、より実践に即した形の体験を通して基礎的な看護実践力を養う。専門性を深め、適切に活用できるようにすること、及び看護観や倫理観を深めることができる。									
評価の観点	【知識・技術】 チーム医療、他職種や保健医療福祉との連携・協働の必要性を踏まえ、知識と技術の統合ができる。 【思考・判断・表現】 看護を実践する場合の多様な課題について、倫理原則、科学的根拠、優先順位、社会資源の活用、多様な価値観の尊重等を踏まえて解決する力を養うことが出来る。 【主体的に学習に取り組む態度】 臨地の場面で発生する多様で複合的な課題の解決に当たって看護職が果たすべき役割を踏まえ、多職種と連携・協働し、主体的に取り組む態度を養うことが出来る。									
	①知識・技術	5(期待している以上である)	4(十分に満足できる)	3(やや努力を要する)	2(努力を要する)	1(相当の努力を要する)				
	②思考・判断・表現	臨地において連携・協働の必要性を理解し、関連する技術を身につけると共に、多様な課題に対する解決策を学び実践することができる。	臨地において連携・協働の必要性を理解し、関連する技術を身につけると共に、多様な課題に対する解決策を学び実践することができる。	臨地において連携・協働の必要性を理解し、関連する技術を身につける事ができる。	臨地において連携・協働の必要性を理解することができる。	連携・協働の必要性を理解できない。				
	③主体的に学習に取り組む態度	臨地における統合的な看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的かつ創造的に解決策を見いだすことができる。	臨地における統合的な看護実践について多様な課題を発見し、倫理観を踏まえて合理的に解決策を見いだすことができる。	臨地における統合的な看護実践について直面する課題に対し、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。	臨地実習において直面する課題に対し、倫理観を踏まえて解決策を考えることができる。	臨地における統合的な看護実践において倫理的課題を認識できない。				
評価の算出	提出物、看護過程の展開状況、実習態度等で総合的に評価する。									
年間学習計画							評価の観点			
学期	月	時数	単元・主な学習内容					①	②	③
前期										
後期	8～10	90	○統合実習2週間 A ・看護管理、部長講話、課長講話 ・複数受け持ち実習						○	○
			B ・手術室実習 ・医療支援相談員講話 ・透析室実習 ・外来実習					○	○	○
	合計	90						○	○	○
学習方法・その他										
◎授業の受け方、その他										
・実習の目標と自己目標をしっかりと踏まえて臨みましょう。										
・地域における看護活動の場を理解し、看護の継続性を考える機会としましょう。										
・今までの実習経験を活用し、実務に即した看護援助を積極的に経験しましょう。										
・わからないことは必ず解決する努力をしてください。確認する、調べる、考えるなどです。										
・チーム医療やメンバースHIPなど、組織の一員として看護者や他職種が活動しているか関心を持つようにしましょう。										
・学生らしい態度と謙虚な姿勢を忘れず、積極的に行動しましょう。										
・自己目標達成に向けて頑張らしましょう。										
・来年は専門職者として社会人になることをしっかりと認識して行動しましょう。										

様式第2号（その3）

授業科目名	情報処理	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	2 (30)
-------	------	-----	----	------	----	-------------	--------

学習目標	目的 情報科学の基礎理論やその技術側面であるコンピュータに関わる知識を深め、それらを看護の考え方や看護情報の処理・判断に役立てる。それまでの学習経験、既存の看護情報の探索、看護理論などに照らして、看護に関する関心テーマを自ら探究する。 目標 1 看護における情報科学について学ぶ事ができる。 2 コンピューター、インターネットについて理解する事ができる。 3 ITスキルを高め、看護情報の処理・判断に役立てる。 内容 情報科学基礎 情報処理、コンピューターの基礎 情報活用の倫理 情報発信の方法 統計基礎、情報分析 看護研究、文献検索
授業形式	講義・コンピューター実習
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	なし
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	人間関係論	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	1 (15)
-------	-------	-----	----	------	----	-------------	--------

学習目標	目的 自らの体験をととして人間集団における相互関係のありようをみつめ、援助関係の成立とコミュニケーションを学ぶ。 目標 1 人間関係を円滑に保つ技法について学ぶ事ができる。 2 自己理解と良好な対人関係について理解を深める事ができる。 3 援助的関係・治療的関係を踏まえた中で、信頼関係の形成やその障害要因・継続要因を学ぶ事ができる。 内容 ストレスとストレスマネジメント 人と人とのやりとり、交流パターンを学ぶ 集団の中での対話 自己表現
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎2 人体の機能と構造 人間関係論 医学書院
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	文学	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	2 (30)
-------	----	-----	----	------	----	-------------	--------

学習目標	目的 言葉に気を配ることで、見えづらい人間の内面を見ようとする態度と技術を養う。自らの考えや、自分と他者・物事を多面的連続的にとらえ表現する能力を養い、看護記録、看護論文の執筆に役立てる。文学を通じて豊かな人間性を養う。他者の観点を自らに取り入れ、共感能力を養う。 目標 1 基礎的な文章能力を身に付けることができる 2 自らの考えを文章化し、看護小論文を書くことができる。 3 語彙力を養い、物事を正確に表現することができる。 内容 短歌（鑑賞、創作） 自己推薦書作成 詩を読む 小論文作成 自分史作成
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	なし
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	生化学	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	2 (30)
-------	-----	-----	----	------	----	-------------	--------

学習目標	目的 人体の構成成分である化学物質の性状、人体における分布及び代謝について理解する。 目標 1 組織や臓器がそれぞれどのような特有の機能を発揮しているか、またそれを構成している生体物質はどのような構造をしているのかを学ぶ事ができる。 2 ヒトの生命活動を可能にしている生体内での物質の代謝について学ぶことができる。 3 ヒトの特徴である、細胞が次世代の細胞に形質を伝達できることを学ぶ事ができる。 内容 生化学を学ぶための基礎知識 遺伝子と核酸、転写 遺伝子と核酸 癌について 代謝の基礎と酵素・補酵素 糖質・タンパク質・脂質の構造と機能、代謝 ポルフィリン代謝と異物代謝
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎2 人体の機能と構造 生化学 医学書院
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	公衆衛生学	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	2 (30)
-------	-------	-----	----	------	----	-------------	--------

学習目標	目的 公衆衛生に関連する統計的な情報を理解させ、組織的な地域・保健活動を学ぶ。 目標 1 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度を学ぶことができる。 2 公衆衛生の理念と実際を理解し、わが国における公衆衛生の現状と問題点を認識する。 3 保健予防に関する基礎的な知識と技術を修得する。 内容 公衆衛生とは 健康と環境 健康の指標 感染症とその予防 生活環境 産業保健
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎2 人体の機能と構造 公衆衛生 医学書院
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	関係法規	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	1 (15)
-------	------	-----	----	------	----	-------------	--------

学習目標	目的 我が国における保健・医療・福祉に関する諸制度の概要を理解し、そこにおいて看護はどのような位置を占め、役割を担っているか知る。 目標 1 看護職に必要な保健・福祉に関係ある法令について学ぶことができる。 2 専門職としての法的責任についての考えを深める事ができる。 3 看護(医療)過誤の事例を通して法的責任の基礎的な問題について理解し、看護事故防止対策を学ぶ。 内容 法規の概念 医事・薬事法規、保健衛生・予防衛生法規、 衛生環境・公害関係・福祉関係法規 法的責任について 看護過誤判例の実際
授業形式	講義
評価方法	授業中の態度・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎2 人体の機能と構造 看護関係法令 医学書院
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	体育	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	1単位（15）
-------	----	-----	----	------	----	-------------	---------

学習目標	目的：運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、解決のための活動を考えながら健康の大切さを理解する。 目標：1、運動や健康についての課題について考える。 2、課題解決に向けた活動を考え、自己の健康を安全に維持することを学ぶ。 内容：1、運動・スポーツを通しての効果的学習課題の発見 2、運動やスポーツの実践と課題解決への活動 3、安全のための危険予知や回避についての理解
授業形式	実技
評価方法	授業中の態度・チームとの協力・積極性・出欠状態などから評価
教科書・参考書	
その他	

様式第2号（その3）

授業科目名	英語	担当者	講師	履修学年	専2	単位数 (時間)	1単位（20）
-------	----	-----	----	------	----	-------------	---------

学習目標	目的：基礎的な英語力を学習し、医療に関する日常の英会話を習得し国際化社会に対応した能力を身に付ける。 目標：1 看護業務に関する専門的な英文が理解できる。 2 看護師として患者に対する治療や援助に必要な基礎的な会話ができる。 内容：1 日常生活動作 2 バイタルサイン 3 検査と処置 4 処方薬の管理 5 退院時の指導
授業形式	講義・演習（リスニング・ロールプレイ）
評価方法	授業中の態度・演習・小テストの成績・考査・出欠状態などから評価
教科書・参考書	Nursing English in Action
その他	医療に関わる言葉や会話を学ぶと同時に、生の英語にも触れていきます。視聴覚教材も活用していきます。